

2022年度日本建築学会教育賞業績説明書

賞の対象：教育貢献

業績名：「千葉県建築学生賞」による建築文化向上への貢献

候補者名：明智 克夫 / 千葉県建築学生賞協議会 名誉会長

寺川 典秀 / 千葉県建築学生賞協議会 顧問

(所属グループとして応募)

千葉県建築学生賞協議会 / (一社) 日本建築学会 関東支部千葉支所

(公社) 日本建築家協会 千葉地域会

(一社) 千葉県建築士会

(公社) 千葉県建築士事務所協会

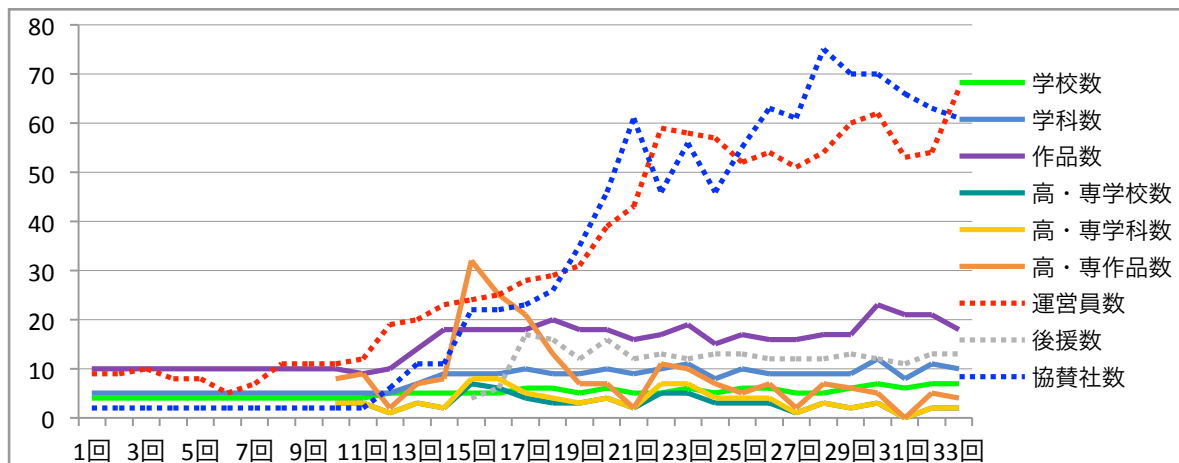
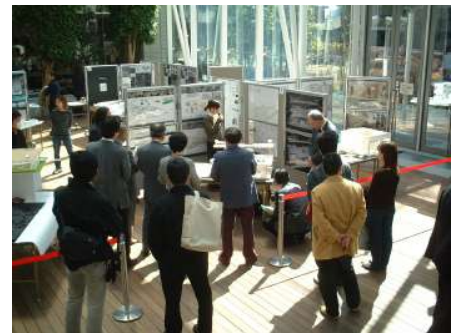
1. 候補業績説明

(1) 教育効果

千葉県建築学生賞（以下「学生賞」）は千葉県内に建築系学科を有する大学各位との意見交換・意識交流を図る場を創出すると同時に、卒業設計に焦点を当て、優秀な作品を表彰することで将来性溢れる学生たちを後押しするという活動を通して、設計業界が広く社会に資することを促進してゆく事を目的に発足した。

1988年に若木滋日本大学教授（現 名誉教授）の働きかけによって、千葉県建築設計監理協会（建築学会 現 JIA 千葉）、千葉県建築士会及び千葉県建築事務所協会の三会により、当時、建築士会が主催していた「建築コンクールちば」の展覧作品を主体にして、千葉県三会による表彰制度の創設が発表された。この三団体と千葉県に建築学科を有する千葉大学、千葉工業大学、東京理科大学、日本大学の4大学2学部の先生方によって、連絡協議会が組織され、全国に先駆け 1989年に「千葉県建築三会学生賞」として、卒業設計作品の選考会が開催された。

1995年には日本建築学会関東支部千葉支所もこの活動に加わり、「千葉県建築四会学生賞」となり、その後、参加校も増え最大7大学12学科となった。さらには県内の建築系学科を有する専門学校や工業高校の作品展示および表彰を行うなど、建築を学ぶ幅広い世代の生徒・学生の励みとなっている。



千葉県内の建築設計に係わる建築関係団体が、建築家を目指す学生たちにエールを贈ると同じ主旨の下で一つに纏まって運営されるこの協議会の形態は、今日の卒業設計展等が流行る中でも、他に例を見ない活動であるとともに、各会より派遣された委員が協力し話し合い、大学・企業と連携しながら行う活動が長年、続いてきたことも、内外からの纏まりの必要性が叫ばれる建築設計界において、稀有ながら注目すべき実例である。

地域文化の活性化に一層寄与することを目指して、優秀な卒業設計作品を表彰することによって学生たちにエールを送るとともに、建築設計界が社会に貢献するための下地づくりを目的として活動してきた千葉県建築学生賞協議会（以下「学生賞協議会」）は30年の長きにわたり学生たちの課題へ挑戦する意欲の向上と創造力の醸成という意味でも、建築教育に貢献している。

そして、独創性に富む建築家の育成につながるこのような取り組みを継続して行うことは建築文化の向上や発展に寄与するものであり、特に地元・地域で活躍しているコミュニティーアーキテクト達による協働作業が、学生賞をステップとして想像力豊かな学生たちが社会へ飛び立ち、将来にわたりまちづくりの一翼を担う次世代の後継者育成の場として、「産」（建築団体）、「官」（県、市町村）、「学」（大学、高校）、「民」の協働による活動は、わが国の建築文化発展に貢献してきた。

（2）教育上の創意工夫

① 教育効果を高める公開審査

学生賞による賞の審査は、出展者が設計意図を正確に表現し、審査委員との討議により作品の理解を深めるとともに審査の透明性を高めるために、第21回より公開審査を実施している。審査には主催の4団体から選任された審査委員の他、構造設計の視点からJSCA千葉より、また出展学生に近い立場から第27回の開催時に創立した本賞の歴代出展者の会（通称：なの花会）から選任された審査委員により審査を行っている。

第17回からは市民参加型公開プレゼンテーションを行う審査形式となり、審査過程はすべて非公開ではあったが、学生による公開プレゼンテーション自体が学生同士の学びの場となり、考え方や創造意欲に刺激を与えるものであった。その後の第21回からの公開審査は、学生のプレゼンテーションに加え、入選作品決定に至るまでの全審査過程の全てを公開することにより、教育効果が格段に向上した。審査過程における議論が公開されたことにより、作品のどの点が評価され、マイナス評価がどの部分にあるのかを学生は認識することができ、単に「入賞した」という結果以上に、精魂込めて作り上げた卒業設計作品に詰め込んだ考えや思いが、審査員との議論の中で、作品完成までの過程へのフィードバックとなり、自分自身の作品の理解を深めるといった教育効果を向上させている。

また、第32回、第33回はイタリアの建築家アントニオ・エスポジト氏（ボローニャ大学 教授）を特別審査員に迎え、国際的見解が得られるようになり、審査のグローバル化も図られた。学生は海外の建築家から自分の作品に対して、評価を受けたことにおいても、今後の建築を学ぶ糧とすることができた。



公開審査



特別審査委員 アントニオ・エスポジト氏

② 一般市民による作品評価

学生賞は、第15回から市民アンケートを実施している。これは広く一般市民の方々との交流を図りながら多角的な視点で作品の評価を受ける機会となっており、この点も教育上の工夫といえる。

会場も一般市民の方々が足を運びやすい場所が選定され、学生の出展意欲を高めている。初期はショッピングモール津田沼サンペディック（現 モリシア津田沼）、第15回からは千葉市生涯学習センター、第22回からは千葉市の中心地にあり千葉市の科学館や子ども交流館などの複合施設であるQiball（きぼーる）で開催された。このように、色々な年齢層の一般市民の方々に建築の魅力、学生の活躍を披露する場として配慮されてきた。第30回からはイオンモール幕張新都心グランドモール「イオンホール」に会場が移され、県外からの来客も多い大型商業施設を会場とし、出展する学生たちの制作意欲の向上の一助ともなっている。そして、学習の成果の発信とともに、この活動が契機となって建築を志す多くの若者がいっそうの探究意欲を高める教育活動となる。

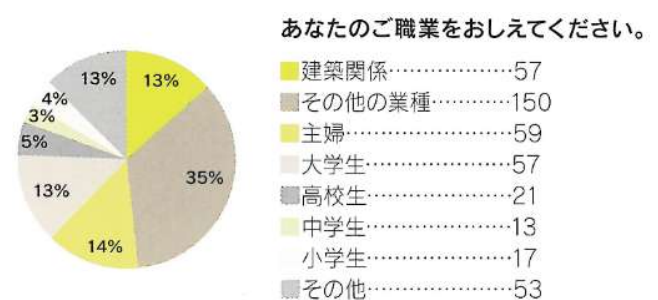
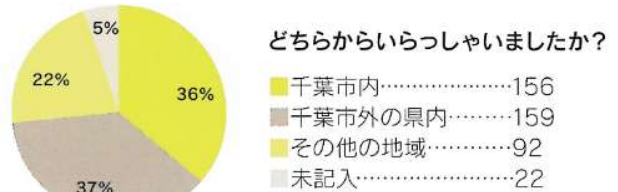
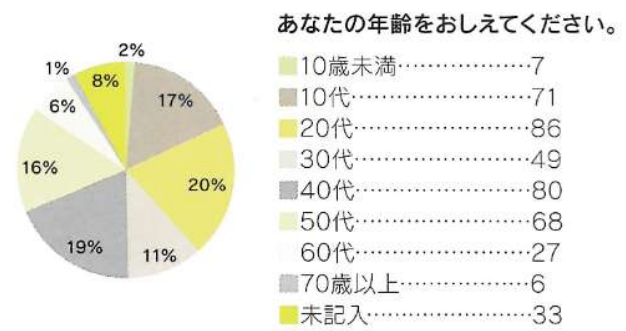
また、第21回からは、展示期間中に訪れる大勢の市民からの投票により選ばれる市民賞を企画しており、建築専門家以外の目線での作品評価も行われている。建築の専門家以外からの評価は、ある意味では純粋な作品への称賛が多く、学生たちにとって大きな励みになっている。さらには、その励みが未来の建築家としての意欲にも結び付くこととなる。市民賞も企画することにより、一般市民の方々に建築という専門的な分野を身近に感じてもらえるよい機会になっている。

(3) 教育活動を通じた社会への貢献の程度

① 継続的な活動の発展を担う出展者の会 「なの花会」

学生賞の他に類を見ない活動の一つに出展者の会がある。各年代の受賞者を核に歴代出展者の輪を広げて学生賞の運営に関わることで、従前の「学生たちにエールを送る」という学生賞コンセプトの未来に、立派な社会人に育った過去の学生が今度は自分が学生たちにエールを送る、という循環が継続され『次代を育てつづける』という新たなコンセプトで発足された会である。この会は、大学や世代の枠を超えた人と人の豊かな繋がりを創造し、幅広いメンバーの交流を目的として、学生賞（旧千葉県建築三会/四会学生賞）に出展した学生の同窓会組織で千葉県の県花をモチーフとして「なの花会」と命名し2009年6月に設立された。第21回の千葉県建築学生賞より審査委員の選出や開催ポスターの制作の他「なの花会賞」を選定するなど学生賞の運営に携わっており、学生賞へ出展した学生がその後も、学生賞の活動に携わるという形を見出した。なの花会の活動は、学生賞の企画・運営に留まらず、建築視察報告会や勉強会、メンバーが設計、関係した建築作品の見学会など多岐にわたりメンバー同士の交流を行う会へと成長し、千葉から巣立つ学生にエールを送る活動の一躍を担っている。このような活動は、価値ある人と人との繋がりを育む場となり、今後も建築教育の活動が引き継がれることが期待される。

第31回学生賞 市民アンケート



② 学校区分を超えた展示・審査・表彰

学生賞は大学生の卒業設計作品の展示・審査にとどまらず、第 11 回より県内工業高校の建築設計作品の併設展示を企画し、建築を学ぶ高校生が大学生の作品を見学し、大学生の作品展示や審査会場が、高校生にとっての学びの場となるような仕組みが構成された。その後も工業高校生の作品展示が継続して企画され、第 19 回には千葉県工業高校生卒業設計コンクールが同時開催され、大学という学校区分を超えて、建築を学ぶ高校生にも教育的視点にたった審査会が行われた。その後、県内にある建築系学科を有する専門学校も加わり、作品展示や卒業設計コンクールが企画・運営され、学生賞の活動目的である「優秀な卒業設計作品を表彰することによって学生たちにエールを送る活動」の輪を広げることとなった。

さらには、学生賞の活動に、継続的に工業高校が関わったことにより、学生賞の審査員が千葉県高等学校総合技術コンクール「建築設計部門」の審査員として直接、現役の高校生に建築の設計に関する助言をする機会が設けられるなど、学生賞の活動が幅広く建築教育へ貢献している。その他にも、千葉県建築学生賞に携わる建築士が高校に出向いて、設計業務に関する講話や、自らが設計した作品の見学会を開催するなど、意欲的な教育活動の機会が設けられた。

また、学生賞では、単発的な企画ではあるが、「未来の建築家」と題し、小中学生の絵画を展示するなど、色々な企画を併設し、「建築」に興味を持ってもらうきっかけづくりを試み、市民の方々には建築という専門的な分野を身近に感じられる機会としての工夫が施されたものになっている。

このように、学生賞は大学生のみならず、小中高校生への建築教育の働きかけをしており、建築の魅力を発信し、建築を学ぼうとする若者の裾野を広げるという意味でも建築教育への貢献であるといえる。



県内工業高校展示



特別審査委員 モンキー・パンチ氏



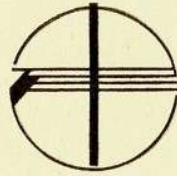
小中学生「未来の建築家」コーナー

2. 候補者と業績との関係

明智名誉会長の下で千葉県建築学生賞協議会は、千葉県内の建築設計に係わる 4 団体（一般社団法人 日本建築学会関東支部千葉支所、公益社団法人 日本建築家協会千葉地域会、一般社団法人 千葉県建築士会、公益社団法人 千葉県建築士事務所協会）が社会へ巣立つ学生たちにエールを贈ると同じ志のもと、建築設計界が社会に貢献するための下地づくりを目的としてこの学生賞を企画・運営している。この協議会は、主催 4 団体から出向された委員の他、協力団体・協賛会や高校教員など 50 名を超える委員によるボランティア運営で、30 年の長きにわたって継続できたのは学生賞協議会の多数の委員の尽力によるものである。

学生賞協議会は、学生賞の立ち上げから、長年にわたるその継続と発展を実現し、建築教育と建築文化の向上に大きく貢献したといえる。





2022年日本建築学会教育賞

AJA Education Award

教育貢献 「千葉県建築学生賞」による建築文化向上への貢献

千葉県建築学生賞協議会 殿

あなたの業績は 日本建築学会教育賞選考委員会において選考の結果 建築教育の発展に貢献する優秀な業績と認められました
よって ここに日本建築学会教育賞を贈り
その業績を賞します

2022年5月30日

一般社団法人 日本建築学会

会長

田辺新一



「千葉県建築学生賞」による建築文化向上への貢献

千葉県建築学生賞協議会 殿

本教育活動は、千葉県内の建築系学科学生の卒業設計を対象にした表彰制度であり、1988年に始まり33年間の歴史を重ねるとともに、常に運営の改善を続けてきた。当初4大学5学科で始まった活動は、今日では6大学10学科が参加するまでとなり、大学生を中心に建築文化の普及・向上に貢献してきた。

1988年10月に日本建築学会大会が千葉県で開催されたことを契機に、千葉県建築設計監理協会（現JIA千葉）、千葉県建築士会、千葉県建築士事務所協会によって、優秀な学生・卒業設計作品に称賛とエールを贈ることを目的に「千葉県建築三会学生賞」が創設され、それが今日、「千葉県内に建築系学科を有する大学各位との意見交換・意識交流を図る場を創出すると同時に、卒業設計にスポットを当て、優秀な作品を表彰することで将来性溢れる学生たちを後押しする」という目的に拡張され、継続して活動を続けている。さらに、歴代出展者による「なの花会」が運営に参画し、協議会の一部となって審査にも参加している。卒業設計等に対して継続的に表彰を続けている活動は全国に見られるが、過去の出展者がボランティアで運営や審査の一部を担っていることは大きな特徴と言える。

2003年からは公開プレゼンテーションを取り入れ、審査はすべて公開されるとともに講評集によって幅広い教育効果が目指され、2004年からは2日間にわたり市民にも展示を公開し、投票を受け付け、2005年からは市民参加型の「市民賞」を創設して、広く展示や審査を公開することで一般社会への建築文化の普及、教育効果の拡大が図られている。現在では千葉県内の建築設計にかかわる4団体（上記団体に日本建築学会関東支部千葉支所が追加）の協力と、これらの団体から派遣される継続的なボランティアメンバー、なの花会、学生ボランティアによって審査・展示会が運営・実施されている。建築家に限らない多彩な特別審査員は漫画家や陶芸家などの多様な評価を審査に導入し、海外からの審査員も迎えることで、参加者の多面的な価値観を育むことに寄与している。

なお、今日では併設イベントとして、小中学生による「未来の建築家コーナー」や、併設展示の工業高校建築科の「建築設計作品展」が開催され、建築文化のすそ野の拡大に貢献していることも評価に値する。このような継続性、運営面の柔軟性、広い世代を対象とした「建築教育」の実践など、総合的に判断して優れたものと評価できる。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。



受賞報告・祝賀会には約70人が参加した

明智名誉会長(右)に花束を贈呈



日本建築学会教育賞のメダル



建築文化の向上に貢献 教育賞を受賞

日本建築学会

教育賞を受賞

建築学生賞会
協 議 会

県内の建築設計4団体で組織する県建築学生賞協議会(明智克夫名誉会長)は、日本建築学会(田辺新一会長)の教育賞(教育貢献)を受賞した。24日に千葉市内で祝賀会が開かれ、関係団体などから約70人が参加し、受賞の喜びを分かち合った。

日本建築学会の教育賞(教育貢献)は、建築教育の発展に貢献した教育者4件が受賞した。同協議会は「日本建築協会千葉地域会」県建



明智名誉会長

築士会▽県建築士事務所協会▽日本建築学会千葉支所—の4団体が運営している。

明智名誉会長は、この学生賞について、優秀な作品を称賛し、学生にエールを送るとともに、「官」「産」「学」の交流を深め、作品展や文化的イベントを通じて、一般市民に広く建築に親んでもらう機会を提供することを目指してきたと報告。

「これからも協議会が一丸となり、さらなる高みを目指して邁進していく」と力強く話し、「本県で学んだ建築学生が将来、国内のみならず、世界に羽ばたき、豊かな都市空間の創造に貢献することを大いに期待している」と話した。

熊谷俊人知事は「皆さまの長年にわたる教育活動がこのよう形で結果

されましたこと、心からお喜び申し上げます。今回のご受賞が、学生の皆さんにとってよい刺激となり、今後も豊かな発想が生まれることを期待いたします」とコメントを寄せた。

祝賀会では、明智名誉会長が法人協会の鈴木周二会長に感謝状を授与。ソプラノ歌手の岩井理花さんが駆け付け、お祝いの歌唱を披露し、花を添えた。

県建築学生賞は、県内の建築系科学学生の卒業設計を対象にした表彰制度。1988年に始まり、33年の歴史を重ねるとともに、常に運営の改善を続けてきた。当初4大学5学科で始まった活動は、6大学10学科が参加するまで広がり、大學生を中心に建築文化の普及・向上に貢献している。